「少年の主張」弟子屈大会

**平成23年度第31回「少年の主張」弟子屈大会が５月29日に弟子屈町公民館で開催され
町内各小中学校の児童６人と生徒10人が、目で見て感じたことや
体験して思ったことなどを、会場に訪れた多くの方々に語りかけました。
最優秀賞には小学生の部で髙橋（たかはし） 志歩（しほ） さん(昭栄小学校６年)、
中学生の部で池上（いけがみ） 温人（あつひと） 君(川湯中学校３年)が、それぞれ選ばれました。
中学生の部最優秀賞の池上君は
７月28日に釧路市生涯学習センターで開催される「少年の主張釧路総合振興局地区大会」に出場します。**

小学生の部　最優秀賞

一人でも増えるように!!

昭栄小学校６年
髙橋　志歩 さん

「紙おむつ、毛布、チャイルドシート、買い物袋、作業用ズボン、いす、雑誌…。」

こう聞いて、みなさんは何を思いうかべますか？かわいい赤ちゃん、それともコンビニ、う～ん、ドラえもんのポケット？いいえ、実はこれ、私の住む南弟子屈地域の道路ぞいに捨てられたゴミの数々なのです。

五月十五日(日曜日)、私達（たち）は地域のみなさんと一緒に、春の一斉清掃を行いました。

「今年はどれくらいのゴミがあるんだろう。きれいにするぞ～」火ばさみにゴミ袋を持って、私は張り切って歩きはじめました。まず初めは、お店などが並んでいない牧草地の続く道路ぞい。お菓子の袋、発泡スチロールなど、あまりごみはありませんでした。次は、毎年ごみが多い橋の方。橋から一段低い所に下りると、袋ごとまとめて捨てた様な空きカンがごっそり出てきました。それに雑誌、お酒のビン、ペットボトル、…と延々に続きます。やっと拾いきって橋に戻ると、そこには、タバコのすいがらがたくさんありました。どう見ても車の中の灰皿から捨てたとしか思えません。いったいどうしてこんなことができるのでしょう？ここは、あまり人が通らないから、自由に捨ててもいいと思ったのでしょうか。そして一番ひどかったのは川沿いの土手でした。大きなビニール、発泡スチロール…など大量のごみが散乱していたのです。みんなで一しょうけん命拾いましたがごみがあまりにも多くて、最後には袋に入り切らなくなってしまいました。ごみを残したまま、帰ることになり、いったいあのごみはどうなってしまうのだろう？あのごみが川に落ちて流れていったら、川に住む魚はどうなってしまうのだろう…。そんな心配がありました。

こんな心ないことをするのは、もしかすると、ごみの袋にお金がかかるからでしょうか。それともごみを分別するのがめんどくさいから？

でもだからといって、ごみを捨てていいはずがありません。ここは、川の近くでとなりは牧草地、どちらも捨ててはいけない場所です。

どうすればなくなるのでしょうか。いっそのことゴミを捨てた人には、罰金や罰を与えればいいのでしょうか。いえ、それでは、あまりにさびしすぎます。大切なのは、一人一人のごみを捨てないようにしようと言う心がけです。

今、私は自分にできることを考え、実行しています。

一つ目は、ポスターづくりです。「ゴ」「ミ」「を」「捨」「て」「な」「い」「で」「ね」と一文字ずつ大きく書いたポスターに、かわいいイラストをそえて、国道沿いにはりだします。そうすればドライバーさんもわかってくれるでしょう。

二つ目は、昭栄小で行った交通安全街頭啓発で、牛乳と一緒にお手紙を渡したことです。「ゴミを捨てないで下（くだ）さい。ご協力お願いします」とがんばって書いたお手紙。読んだ時のドライバーさんの反応がとても楽しみです。

そして、三つ目は、これからもゴミ拾いを続けていくことです。地域のみなさんと一緒に、昭栄小学校のみんなと一緒に、そして学校の行き帰りにも！私達小学生に出来ることは小さいことかもしれません。でもそれでも、少しずつごみを拾い、呼びかけをすることでわかってもらいたいのです。

私はこの南弟子屈地域が大好きです。たくさんの牧草地、動物達の住む川や森、とても自然豊かな南弟子屈地域。

「きれいだなぁ～」「気持ちいいなぁ～」とホッとする地域。

「あっ…いけないな、捨てられないぞ」そんな風に思ってくれる人が一人でも増えるように!!

大会当日の審査の様子

出場者の皆さんと審査結果(敬称略)

小学生の部

最優秀賞	「一人でも増えるように!!」	昭栄小６年	髙橋 志歩
優秀賞	「私の家の仕事」	美留和小５年	八幡 彩未
優良賞	「命」	奥春別小６年	阪口 貴明
奨励賞	「たった一人の六年生」	和琴小６年	松岡 未奈
奨励賞	「今回の震災で伝えたいこと」	弟子屈小６年	新木 翔太
奨励賞	「六年生になってからの自分」	弟子屈小６年	一ノ戸 真由
奨励賞	「緑あふれる町に」	川湯小６年	瀬原 彩花

※インフルエンザによる学校閉鎖のため川湯小学校は不参加でしたが、主張作成までの取り組みをたたえる趣旨で奨励賞を贈呈。

中学生の部

最優秀賞	「葛藤」	川湯中３年	池上 温人
優秀賞	「ありがとうかけがえのない皆へ」	弟子屈中２年	山本 竹人
優良賞	「みんなでつなぐ、日本の未来」	弟子屈中１年	西郷 綾夏
優良賞	「総師範をめざして」	弟子屈中１年	阿部 奈央子
奨励賞	「兄弟げんか」	弟子屈中３年	秋山 倫瑠
奨励賞	「正しい食生活」	弟子屈中２年	谷岡 尚貴
奨励賞	「私の家族」	弟子屈中３年	中村 優
奨励賞	「理想の姿」	川湯中２年	瀬原 健太
奨励賞	「共存するということ」	川湯中２年	長谷川 礼奈
奨励賞	「東日本大震災におもう」	川湯中１年	下谷 美咲

中学生の部　最優秀賞

葛藤

川湯中学校３年
池上　温人 君

ぼくは今中学三年生です。卒業まで、義務教育が終わるまで一年もありません。一年後のぼくがどうなっているのか、どう変わっているのか、想像がつきません。

でも、悩んでいても一年後は確実に訪れ、通り過ぎて行きます。それまでに何らかの答えを見つけなければなりません。答えを見つけると変わることができるか、答えを探すことと変わることが、イコールなのか。

中学校を卒業する時、これは大きな節目だとぼくは思います。自分でしっかりと先を見定め、大きな壁を超えることが理由の一つです。その大きな転換期をどのように迎えるか、ぼくの心の真の葛藤です。

ぼくが中学に入学してから、２回先輩を送り出しました。その先輩たちがどんな葛藤を抱え、卒業という壁を越えていったのか、近くにいながら全くわかりませんでした。

しかし、予測がつくものがいくつかあります。一つは周りからの扱いが変わることです。親元を離れたり、大方の決断を自分に要求されたり、そんな場合もあります。大人として見られ始めるということかもしれません。この場合変わるべきは、自覚と責任の持ち方ではないでしょうか。

二つ目は決断を下す機会が多く、また、重たくなることです。中学生の間は親に頼んでいたことも、全て自分で行うことがあります。アルバイトが可能になり、社会との接点が増えることもあります。決断力、自信、勇気をより一層もつべきだと思います。まだまだぼんやりとして見えませんが一般的にはこのようなことでしょうか。

変わるべきことが見えれば、おのずと今これからすべきことが見えてきます。また自分がなりたいことやしたいことから、今すべきことが浮かんできます。

ぼくには、自分の行きたい高校があります。今はそこに決めていますが、少し前までは違ったところを考えていました。進路に関する選択を変えたのは、将来のことを考え、そちらの方が自分に必要と判断したためです。以前は最善だと思っていた進路から今の進路へ変えた時、そこにも葛藤がありました。

進路を変えたこと、これはぼくが葛藤を乗り越えることができた瞬間だったのかもしれません。普段の生活の中では意識せずに変われる部分があるのかもしれませんが、意図的にぼく自身が変わることも必要かと思います。ですから、ぼくは次のことへしっかり臨みたいです。

一つ目は、学習。中学校での学びは、必要最低限といったところですから、生きていく力として、もっとたくさんの学びが必要だと感じます。またぼくは、「たくさんの人と出会う」ことを夢の一つとしているので、語学、英語を積極的に勉強していきたいです。

二つ目には、生徒会の活動です。僕は生徒会長として皆を引っ張り、より活発で、まとまった生徒会にできるようにしたいと考えています。このことが実現できれば、ひいては社会の中で生きる力につながると思いますし、生きる力を身につけたいと思います。

三つ目は、親や周りの大人たちがしてくれることを知ることです。自分がどんな環境で生きているかを知り、感謝の気持ちを持つことがこの先の励みや糧につながると思うからです。

四つ目は、社会の常識を知ることです。新聞やニュースを通して得ることは、最も必要な情報だと思うからです。日々の学校生活では学べないことも多いでしょう。学校での学習は必要最低限です。社会で生きていくためには、社会の常識を知り、対応していくことが求められるはずです。

これらの心掛けを持って生活できたら、多少は僕自身が変われるでしょうか。まだ想像がつきませんが、一つわかったことは、今できることを精一杯（せいいっぱい）やるということです。ですから、ぼくは一年後の自分がどう変化しているのかを楽しみにしながら、今を生きます。そこへ続く今を、希望と勇気を胸に、生きていくのです。